

# 基礎心配 中高を復習

## 大学では

大学側のテキストも中学、高校レベルのものが多くなっている。「全入時代」目前で大学入試も易しくなり、中高のやり直しをきちんとさせなければ、その後の授業が成り立たないからだ。

「文の成り立ち」「時制」「受動態」……。桐原書店が06年に出した

「ENGLISH QUEST (BASIC)」は英語検定3級(中卒程度)のレベル。文法に加え、読む、書く、聞くの練習問題が豊富だ。より易しい版もあるQUESTシリーズは、明治、法政、専修、名古屋学院、九州産業など延べ190大学で採用された。「好評のため、今春から3種類に増やす」と担当者。入学後半年か1年で使う大学が多いという。

「いまや1年生の多くが英検3級レベル。準2

〜1級の学生が半数以上を占めるという大学が非常に少なくなった」。大学生の学力と学び直しを研究する「日本リメディアル教育学会」の小野博会長は、毎年5千〜1万人の新入生を対象にした英語テストの結果を、こう分析する。

QUESTも、この学会の会員が中心となって編集した。中高で英語の授業が減るなどしたため、大学1〜2年でその分を補わなければ専門教育が成り立たない。

予備校大手の東進ハイスクールは06年、大学営業部をつくり、学科テストのない推薦入試などで早く合格を決めた学生を対象に、大学入学前教育を請け負うようになった。DVDに入った講師の説明を自宅で聞きながら、目で追えるテキストが19科目ある。

中学レベルの「基礎計算力完成」、高校レベルの「数学①〜③」、医学部系が学び直す「生物・人体」など。それぞれ10〜12講(1講90分)から成る。

今春は偏差値65レベルの大学を含め、100校の約2万人が何らかのテキストを使った。「入学後の補習用にも使う大学が出てきたほど」と、大学営業部の麻柄真治さんは話す。

代々木ゼミナールも02年から補習支援サービス始めた。工業系大学向けの「化学」や経済系学部の「数学」など、教授たちが「履修不足」と感じる分野を聞きながらテキストを開発。「講師派遣とセットで提供する。学生の自尊心を傷つけないように復習するところ」にノウハウがある」と担当者は言う。